

向谷美咲が女王に！！ PBAリージョナル3勝目



プロ・アマ問わず、その日一番打った人が勝つ！当たり前的事だがそれを証明したのが向谷美咲だ。予選は3シフト、そこでプラスを打ったのは、たったの2名、その1名が向谷だ。外ミスが許せない難コンディションのドラゴン。多くのボウラーが苦しむ中ただ一人エッジ付近の3～5枚目を投げストライクを量産、外が通用しなくなれば、徐々に中に入っていく心憎いレーンアジャスト。準決勝1回戦は3位通過、2回戦は2位通過。安定したボウリングを重ね、決勝トーナメントを2位で待つ。一方、1位通過は大槻絵里子(JBC)だ。予選は全体の28位通過だったが、準決勝1回戦・2回戦から調子上げ、見事TOPに躍り出た。レベルの高い神奈川県でもまれ、県内では有名な女子ボウラーだ。向谷は、3位決定戦で野仲美咲(JBC)を撃破し、決勝戦に進んだ。

いよいよ優勝決定戦。向谷はスタートから4連続ストライク。スペアで凌ぐ大槻を大きくリードした。しかし、勝負はまだ分からない。1G勝負の怖さだ。ストライクが止まった向谷に対し大槻は6・7フレでダブルを持ってきてその差は2マーク。さらに向谷8フレスプリットでオープン。その差はワンマークに縮まった。ファンデーションフレーム両者ストライク。テンプレ勝負だ。男子プロボウラーのような20～25枚のインサイドを投げる向谷は落ち着きはらっていた。10フレでパンチアウトを見事決め、逃げ切った。一方の大槻もターキーと追いつがったがあと一歩及ばなかった。決勝戦をノーミスで投げ、最後まで追いつがった大槻の活躍は大いに讃えたい。235対221、素晴らしい緊張感あふれる優勝戦だった。

このPBAリージョナル、向谷は過去、2017・2018のチーターを連破、今回のドラゴンで3勝目を挙げた。今回も多くの子プロボウラーや、ナショナルチームのアマチュアボウラーなど全国各地から参加、女王の座を目指し盛り上がった戦いになった。言葉では言い表せない痺れる戦い。この緊張あふれる戦いを、もう一度観たい方は、ユーチューブ「PBAjapan」で検索してご覧ください。



準優勝 大槻 絵里子

準決勝からトップシード獲得も

決勝戦は、向谷との競り合いに惜敗



3位 野仲 美咲

予選1位通過。好調を維持して

いたが、3位決定戦で力尽きた。